



今月の郷土芸能!!

地域に根付く 千人同心の想い

勇払千人隊御会所太鼓は、苦小牧開拓の祖とされる「八王子千人同心」の苦難や想いを太鼓の曲で表現し、風化させることなく語り継ぎたいと、昭和45年に創始されました。現在は「勇払中学校太鼓同好会」や、小学生による「チビッコなかよし太鼓」を含む、子どもから大人までの28人で市内外のイベントで活



▲上：勇払小学校での練習風景（10月4日(金)）
下：八王子市との姉妹都市盟約40周年を記念した文化交流公演での演奏の様子（10月5日(土)）

勇払千人隊御会所太鼓

代表 おおいし しげかず 大石 重一 さん
連絡先 090-6873-9758



みんなの



動しています。

取材当日は、翌日に控えた公演の仕上げ練習の日でした。子どもと大人の合奏曲では、息の合ったバチさばきで打つ太鼓から、ドンドンと迫力のある音が響いています。先輩たちの演奏を聴いて、か

っこいいと思っ始めてたという勇払小6年生の川村さんは、「最初は自分の手を叩いてしまい、やめたいと思った事もあるけれど、みんなと一緒に音を合わせることが楽しいから、今はやめられません」と、笑顔で太鼓の楽しさを話してくれました。

「長く続けてもらうために、子どもたちには、太鼓を

楽しんで欲しいですね」と話すのは代表の大石さん。現在活動している大人のほとんどが、小・中学生の頃から太鼓を続けているそうで、親子での参加者もいるなど、広い世代に愛されている様子がわかります。大石さんは「ここ勇払で生まれた郷土芸能として地域に根付かせ、絶やすことなく後世に伝えていきたいです」と、『勇払の太鼓』としての継承の想いを語ってくれました。

10月5日(土)、千人同心ゆかりの八王子市との文化交流公演が勇払中学校で行われ、『勇払千人隊開拓太鼓』など6曲を演奏した御会所太鼓の皆さん。和太鼓の響きが生み出す独特の緊張感に包まれる中、世代を越えた仲間と呼吸を合わせ、真剣なまなざしで太鼓を打つ姿がそこにありました。